



研究テーマ

1 フラックス観測と河川濁度測定による流域レベルの炭素収支

2 モニタリング1000プロジェクト

研究概要

森林生態系の炭素収支の研究しています。

高木 正博

たかぎ まさひろ

農学部

農学部 森林環境持続性
科学領域附属次世代農学教育研究
センター

教授

キーワード

特許情報・
共同研究・
応用分野など

1 フラックス観測と河川濁度測定による流域レベルの炭素収支

田野フィールド(演習林)内に設置された渦相関法を採用した観測鉄塔において、大気-森林間の二酸化炭素の交換量を測定しています。また河川から流出する炭素の量を、濁度成分の流出量とそれに含まれる炭素含量から求め、森林流域の正確な炭素の蓄積量を求めることを目的としています。



2 モニタリング1000プロジェクト

環境省生物多様性センターのプロジェクトの一環として、2005年から毎年、面積1ヘクタールの照葉樹林の毎木調査を行い、樹木の成長量や入れ替わりなどの森林動態を観測しています。このデータを元に、森林を構成する樹木に蓄積する炭素量を推定することが可能です。



ホームページ

森林の二酸化炭素収支の観測システムの紹介

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/cia/tano/research/2023/08/759>

技術相談に応じられる関連分野

メッセージ